

GX(グリーン TRANSFORMATION)の普及を促進する「TOKYO GX ACTION」

体験型 GX イベント 「TOKYO GX ACTION CHANGING」

未来を変える脱炭素アクションに2日間で約6.5万人が参加

特設サイト URL : tokyo-gx-action.jp

東京都は、2030年のカーボンハーフ、2050年のカーボンニュートラルの実現に向け、化石燃料からクリーンエネルギー中心の社会へと転換するGX(グリーン TRANSFORMATION)の取組を加速させていきます。都民一人一人がGXを理解し行動を変えていくことを目指し、年間を通じて最新のGX技術などを広く発信していく「TOKYO GX ACTION」をスタートしています。

このたび、5月17日(土)、18(日)に東京ビッグサイトで、ABB FIA フォーミュラE世界選手権「東京E-Prix」との併催にて大規模な体験型イベント「TOKYO GX ACTION CHANGING ~未来を変える脱炭素アクション~」を開催。2日間で約6.5万人が来場し、未来のGXを発信する展示や体験、ステージに参加しました。



<実施概要>

「TOKYO GX ACTION CHANGING ~未来を変える脱炭素アクション~」

日時：令和7年(2025年)5月17日(土)、5月18日(日)

場所：東京ビッグサイト 東1～3ホール/南1～4ホール

<イベントについて>

本イベントは、GX・気候変動対策が「我慢するのではなく、今より生活の質を上げるための選択」であるという発想のもと、GX技術やライフスタイルを“体験”を通して知ってもらう場として設計。来場された方々は、最新技術に触れ、サステナブルな食を味わい、未来のモビリティを実際に操作するなど、五感を通じて未来を変える脱炭素アクションに参加しました。

<本イベントに関するお問い合わせ先>

TOKYO GX ACTION 広報事務局（プラチナム内）担当：島本・小野村・鈴木・角谷
TEL : 03-5572-6071 携帯 : 050-5470-5152 MAIL : tokyo_gx_action_pr@vectorinc.co.jp

<オープニングセレモニー>



17日に行われたオープニングセレモニーには東京都産業労働局 田中慎一局長、江東区 大久保朋果区長が登壇し開幕。その後、TOKYO GX ACTION 公式アンバサダーを務めるタレントの山之内すずさんが、リメイクファンションの長ランを身にまとった”GX 番長”の姿で登壇し会場を沸かせました。イベントの背景や意義に触れながら、展示コンテンツの紹介やミライカレーの試食を行い、山之内さんは「行きたいところがたくさん！」と期待を膨らませました。

<都立ジーエックス学園 / GX TREE>



東京ビッグサイトの東1ホールに入場した来場者を迎えたのは、高さ 6 メートルの巨大シンボル「GX TREE」。来場者が会場内の様々な体験に参加することで LED の演出が赤色から緑へ変わっていくこのツリーは、各日クローズの時間には美しい緑色に変わっていました。

また、「都立ジーエックス学園」ではエネルギー・モビリティ・住まい・食の 4 テーマで脱炭素を学べるワークショップを開催。学校では学べない未来について親子でインラクティブに学ぶ姿が多くみられました。

<MOBILITY QUEST>



「MOBILITY QUEST」には、四輪・二輪・マイクロモビリティなど、国内外の最先端モビリティが一堂に集結しました。最新の ZEV (ゼロエミッション・ビークル) などを展示したエリアには、日産の「Formula E Gen3 Evo 車両 (2024/2025 シーズンモデル)」が展示され、フォトスポットとしても大人気。楽しみながら技術を学べるクイズラリーも実施し、来場者は興味深く展示を見ていきました。

<本イベントに関するお問い合わせ先>

TOKYO GX ACTION 広報事務局（プラチナム内）担当：島本・小野村・鈴木・角谷
TEL : 03-5572-6071 携帯 : 050-5470-5152 MAIL : tokyo_gx_action_pr@vectorinc.co.jp

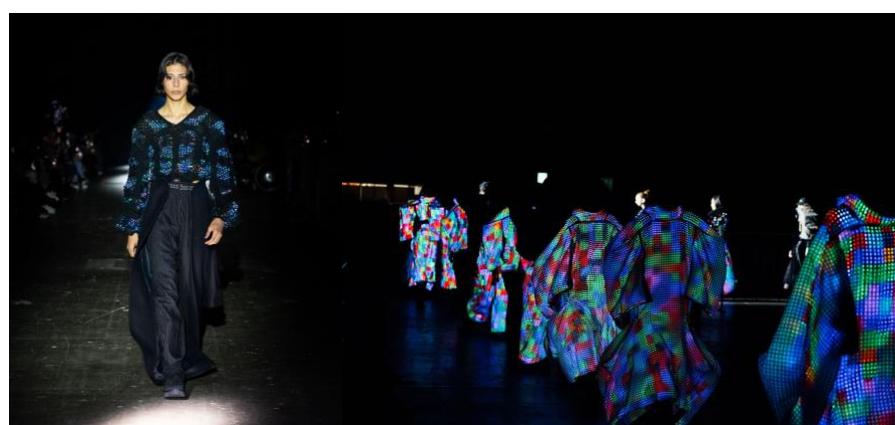
ほかにも個性豊かなモビリティに試乗できるコーナーや、燃料電池フォークリフトや小型配送用EVなどの「はたらくクルマ」も並び、子どもから大人まで、さらには企業関係者も視察に訪れていました。

<GREEN STAGE>



GREEN STAGEでは、学びもエンタメも交差する多彩なコンテンツが展開されました。明星学園高等学校、女子聖学院高等学校、開成高等学校、慶應義塾高等学校の皆さんと『日本は2050年までに国内の畜産の牛肉をなくし、全ての肉を代替肉にすべきである。』『日本は2050年までに、すべての火力発電を廃止し、再生可能エネルギー由来の電力に切り替えるべきである。』をテーマに熱弁を交わした「GXディベート甲子園」は各ホールにも中継され、注目を集めました。

トークセッション『明日誰かに話したくなる気候変動』には、TOKYO GX ACTION公式アンバサダーの山之内すずさん、気象予報士の木原実さん、そして東京大学未来ビジョン研究センター教授の江守正多さんが登壇。木原さんは異常気象の実例を交えながら、気候変動が私たちの生活に与える影響を優しくかつリアルに解説。江守さんは、「我慢じゃない。前向きに楽しもう。—『やらされ感』ではなく、未来をつくるワクワクで動こう。」「新しい技術を、賢く取り入れよう。—省エネ家電も、再エネも、EVも。『選ぶ力』が未来を変える。」といったGX実践のための「5つの鉄則」が紹介されました。山之内さんはそれぞれの項目に対し、自身の体験や若い世代の感覚を交えてコメントを加え、気づきと共感をさらに深めました。



17日にはMPLUSPLUSとANREALAGE(アンリアレイジ)によるLEDダンス×ファッションショーが披露され、観客を未来都市へ誘うような演出が展開されました。さらにスペシャルゲストとして、モデルとしても活躍するラウールさんが登場し、突然のサプライズに観客が驚く一幕もありました。一つの衣服が一度のランウェイで幾重にも違う表情を見せる様子は、ステナビリティの新しい価値を体現していました。

<本イベントに関するお問い合わせ先>

TOKYO GX ACTION 広報事務局（プラチナム内）担当：島本・小野村・鈴木・角谷
TEL: 03-5572-6071 携帯: 050-5470-5152 MAIL: tokyo_gx_action_pr@vectorinc.co.jp



そして、18日のステージでは、5人組男性アーティスト Da-iCE によるスペシャルライブを開催。会場は約5,000名のファンで埋め尽くされ、代表曲「スター・マイン」などの熱いステージを繰り広げました。ライブ後半では、「TOKYO GX ACTION」のイメージソングとなる新曲「サンクチュアリ」をライブ初披露し、観客はその美しいメロディーと歌声に聴き入っていました。なおこの楽曲は、GX を広く発信していく「TOKYO GX ACTION」に共感し、未来への変革のメッセージを音楽とともに伝えることを目的に、Da-iCE メンバーの工藤大輝さん・花村想太さん、そしてゆずの北川悠仁さんが共作した楽曲です。

ライブ終了後に行われたトークには、小池百合子東京都知事が登場。「（今回の新曲は）今を未来をつなぐというキーメッセージが入っていて、このイベントにぴったりの素晴らしい曲でした」といった感想が語られ、拍手が起きました。

<ミライカレー2025>



“食から未来を考える”をテーマに展開された「ミライカレー2025」は、13のカレー店舗が出店。代替肉やジビエ、規格外野菜の使用や地産地消など、脱炭素をテーマにしたカレーを展開し、サステナブルな食の最前線が一堂に集う人気エリアとなりました。

<本イベントに関するお問い合わせ先>

TOKYO GX ACTION 広報事務局（プラチナム内）担当：島本・小野村・鈴木・角谷
TEL : 03-5572-6071 携帯 : 050-5470-5152 MAIL : tokyo_gx_action_pr@vectorinc.co.jp

<ぐでたま HOUSE & ENERGY>



サンリオの人気キャラクター「ぐでたま」とコラボした、GXの基礎を学べる展示ゾーン「ぐでたま HOUSE & ENERGY」が展開され、小さな子どもたちやファミリー層に大人気となりました。ぐでたまのゆる~い一言とともに、ハウスやエネルギーにまつわる最新テクノロジーを紹介し、子どもたちが興味深く眺める姿が数多く見られました。

<GX BRUTUS / sense of place>



GXのカルチャー・都市的ライフスタイルをテーマにした南2ホールでは、雑誌『BRUTUS』とのコラボ空間「GX BRUTUS」や、使えないと思われた資源を新しい価値に替える出展者があつまつた「sense of place」が展開されました。

アップサイクル素材を使ったネイルや、シートベルトの端材を使ったキャンプギアなどが並び、「GX BRUTUS」「sense of place」とともに、GXを日常の衣・住へどう取り入れるかが提案されました。GXはかつこよく、おしゃれに楽しめるという認識が広がる場となっていました。

<EV KART TIME ATTACK / 東京ドローン空港>



南3ホールでは、電動レーシングカートでコースを駆け抜ける「EV KART TIME ATTACK」が開催され、2日間ともに朝から大盛況に。タイムアタックの体験者はスタート直後から高加速する電動カートの静かさとパワーを体感しました。各走行後には計測されたタイムを記録し、来場者同士の競争も生まれ、大人も熱中するコンテンツとなりました。

<本イベントに関するお問い合わせ先>

TOKYO GX ACTION 広報事務局（プラチナム内）担当：島本・小野村・鈴木・角谷
TEL : 03-5572-6071 携帯 : 050-5470-5152 MAIL : tokyo_gx_action_pr@vectorinc.co.jp

「東京ドローン空港」では、資格不要で操作可能な練習機を使って、ドローンの操縦に挑戦する子どもたちが行列に。指導スタッフの丁寧な説明と補助を受けながら、空中操作の面白さと技術の可能性を体感しました。

<次世代モビリティ教習所 / ラジコン超スピードバトル>



コンパクトな電動マイクロモビリティを使った教習体験ができる「次世代モビリティ教習所」は、自転車ともバイクとも違う、新しい移動手段に来場者の関心も高く、試乗を通じて未来の交通ルールを学んでいました。

「ラジコン超スピードバトル」では、初心者向けの体験コーナーに多くの親子連れが来場。巨大なコースを走行するプロレーサーのテクニックに驚く来場者も多く、声援を送りながら熱中している様子が見られました。

<TOKYO GX ACTION ZEV パレード / トラックウォーク>



そして、フォーミュラE世界選手権の第8戦が行われた17日には、未来を変える脱炭素モビリティを体感できるスペシャルパレードをコース上にて開催。地球に優しくスマートでかっこいい電動マイクロモビリティの「ラプター」や「TAJIMA KOKI」などに加えて、水素モビリティの「ChatBike」が一堂に介し、電気や水素などを活用したモビリティの広がりを実感できる機会となりました。

また、夕方にはE-Prixの実際の市街地コースを一般来場者が自らの足で歩けるトラックウォークを実施。参加者たちは、フォーミュラEさながらの雰囲気を味わいながら、スタートラインやグランドスタンド前を歩き、脱炭素社会におけるあらたなモータースポーツを肌で感じていました。

<本イベントに関するお問い合わせ先>

TOKYO GX ACTION 広報事務局（プラチナム内）担当：島本・小野村・鈴木・角谷
TEL : 03-5572-6071 携帯 : 050-5470-5152 MAIL : tokyo_gx_action_pr@vectorinc.co.jp

『TOKYO GX ACTION』公式ホームページ／SNS アカウント

公式ホームページ

X

Instagram



<https://tokyo-gx-action.jp>